

シンポジウム

自然を活かした防災減災を考える

沿岸の自然のしくみを理解し、自然のちからで明日をひらく

2016年2月28日(日)13:00~17:00 東京海洋大学白鷹館

東日本大震災以来、沿岸に大規模な人工構造物を設置しての防災減災がすすみつつあります。気候変動で自然災害の規模拡大・頻発化も懸念され、より人工構造物に頼ろうとする流れがあります。しかし、今こそ自然のしくみを理解し、防災減災に自然のちからを活かす方法を考える必要があるのではないでしょうか。シンポジウムでは、とくに沿岸に着目し、自然を活かした防災減災を考えます。

- 災害とはなにか～『防災』ではなく『縮災をめざす』～ 河田恵昭（阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター長／中央防災会議・東日本大震災地震津波対策専門調査会座長）
- 日本の自然と地形の多様さの意味すること 中井達郎（国土館大学非常勤講師）
- 海辺のくらしと自然とのつきあいかた 保屋野初子（都留文科大学社会学科非常勤講師）
- 自然を活かした防災減災と沿岸管理の課題 清野聡子（九州大学大学院准教授）
- パネルディスカッション コーディネーター：吉田正人（筑波大学大学院教授・IUCN 日本委員会会長）
パネリスト：向井 宏、中井達郎、保屋野初子、清野聡子

会 場：東京海洋大学 品川キャンパス・白鷹館（東京都港区港南4丁目4-5-7）

JR 線・京浜急行線 品川駅・港南口(東口)から徒歩約 10 分／東京モノレール天王洲アイル駅から約 15 分

資料代：1000 円（予定）

主 催：公益財団法人日本自然保護協会 <申込・問合せ>TEL：03-3553-4103 E-mail：umi@nacsj.or.jp

*当日参加も受け付けますが、資料等の準備のため、事前申し込みにご協力ください。



この事業は経団連自然保護基金の助成により実施します。

